

商品名 セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「SW」 添付文書情報

一般名	セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物錠	薬価	41.10
規格	100mg 1錠	区分	
製造メーカー	沢井製薬	販売メーカー	沢井製薬
薬効	6. 病原生物に対する医薬品 61. 抗生物質製剤 613. 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの 6132. セフェム系抗生物質製剤		

セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「SW」の用法・用量

通常、成人にはセフカペン ピボキシル塩酸塩水和物として1回100mg（力価）を1日3回食後経口投与する。なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、難治性又は効果不十分と思われる症例には1回150mg（力価）を1日3回食後経口投与する。

セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「SW」の効能・効果

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管炎・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭炎・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、子宮頸管炎、胆嚢炎、胆管炎、バルトリン腺炎、子宮内感染、子宮付属器炎、涙嚢炎、麦粒腫、瞼板腺炎、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎。

【効能又は効果に関連する注意】

〈咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎〉「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「SW」の有効菌種

セフカペンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ・カタラーリス（ブランハメラ・カタラーリス）、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンス属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属、バクテロイデス属、プレボテラ属（プレボテラ・ピビアを除く）、アクネ菌。

セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「SW」の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）：不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗、呼吸困難、血圧低下等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 急性腎障害（頻度不明）：急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがある。
- 3) 無顆粒球症、血小板減少、溶血性貧血（いずれも頻度不明）。
- 4) 偽膜性大腸炎、出血性大腸炎（いずれも頻度不明）：偽膜性大腸炎、出血性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎があらわれることがあるので、腹痛、頻回の下痢があらわれた場合には直ちに投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 5) 中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、紅皮症（剥脱性皮膚炎）（いずれも頻度不明）。
- 6) 間質性肺炎、好酸球性肺炎（いずれも頻度不明）：発熱、咳嗽、呼吸困難等の症状があらわれた場合には投与を中止し、速やかに胸部X線検査、速やかに血液検査等を実施し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 7) 劇症肝炎、肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）：劇症肝炎等の重篤な肝炎、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがある。
- 8) 横紋筋融解症（頻度不明）：筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、このような場合には、直ちに投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（0.1～5%）発疹、（0.1%未満）蕁麻疹、そう痒感、発赤、紅斑、腫脹、（頻度不明）関節痛、発熱。
- [2] 血液：（0.1～5%）好酸球増多、（0.1%未満）貧血（赤血球減少、ヘモグロビン減少、ヘマトクリット減少）、（頻度不明）顆粒球減少、血小板減少。
- [3] 肝臓：（0.1～5%）ALT上昇、AST上昇、LDH上昇、Al-P上昇、 γ -GTP上昇、（頻度不明）黄疸。
- [4] 腎臓：（0.1～5%）BUN上昇、蛋白尿、血尿、（0.1%未満）クレアチニン上昇、（頻度不明）浮腫。
- [5] 消化器：（0.1～5%）下痢、腹痛、胃不快感、胃痛、嘔気、嘔吐、（0.1%未満）食欲不振、便秘、口渇、口内しびれ感。
- [6] 菌交代症：（頻度不明）口内炎、カンジダ症。
- [7] ビタミン欠乏症：（頻度不明）ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症、出血傾向等）、ビタミンB群欠乏症状（舌炎、口内炎、食欲不振、神経炎等）。
- [8] その他：（0.1～5%）CK上昇、アルドラーゼ上昇、（0.1%未満）めまい、頭痛、倦怠感、眠気、（頻度不明）心悸亢進、四肢しびれ感、筋肉痛、血清カルニチン低下。

セフカペンピボキシル塩酸塩錠100mg「SW」の使用上の注意

【禁忌】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

【重要な基本的注意】

1. 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
2. ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。
3. 急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。
4. 無顆粒球症、血小板減少、溶血性貧血があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。
5. 劇症肝炎等の重篤な肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行うこと。

と。

【合併症・既往歴等のある患者】

1. セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者：治療上やむを得ないと判断される場合を除き、投与しない（ただし、本剤に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと）。
2. ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者。
3. 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者。
4. 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、全身状態の悪い患者：観察を十分に行うこと（ビタミンK欠乏症状があらわれることがある）。

【腎機能障害患者】

- 1) 腎不全又は高度腎障害（クレアチニンクリアランス40mL/min以下）のある患者：投与量を減らすか、投与間隔をあけて使用すること（血中濃度が持続する）。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。妊娠後期にピボキシル基を有する抗生物質を投与された妊婦と、その出生児において低カルニチン血症の発現が報告されている。

【小児等】

- 1) 低出生体重児、新生児を対象とした臨床試験は実施していない。
- 2) カルニチンの低下に注意すること。血清カルニチンが低下する先天性代謝異常の小児等であることが判明した場合には投与しないこと。小児（特に乳幼児）においてピボキシル基を有する抗生物質（小児用製剤）の投与により、低カルニチン血症に伴う低血糖があらわれることがある。

【高齢者】

次の点に注意し、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

- 1) 本剤は腎排泄型の薬剤であり、高齢者では一般に生理機能が低下していることが多く、高齢者を対象とした本剤の薬物動態の検討において、副作用は認められなかったが、健康成人に比べ尿中回収率はやや低く、血中半減期も延長する傾向が認められている。
- 2) ビタミンK欠乏による出血傾向があらわれることがある。

【臨床検査結果に及ぼす影響】

1. テステープ反応を除くベネディクト試薬、フェーリング試薬による尿糖検査では偽陽性を呈することがある。
2. 直接クームス試験陽性を呈することがある。

【適用上の注意】

1. 薬剤交付時の注意：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること（PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある）。

【その他の注意】

1. 臨床使用に基づく情報：本剤を含むピボキシル基を有する抗生物質（セフカペン ピボキシル塩酸塩水和物、セフジトレン ピボキシル、セフテラム ピボキシル、テビベネム ピボキシル）の投与により、ピバリン酸（ピボキシル基を有する抗生物質の代謝物）の代謝・排泄に伴う血清カルニチン低下が報告されている。
2. 非臨床試験に基づく情報：動物試験（イヌ）でCK上昇を伴う筋細胞障害（骨格筋の病理組織学的検査）が認められている。

【取扱い上の注意】

防湿性の高いPTPとアルミ袋により品質保持を図っているため、アルミ袋開封後はPTP包装のまま保存すること。

【保管上の注意】

室温保存。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.